

報道各位

## 2018年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式 ～2018年1月5日(金)午前10時30分 TOKYO FMホール～

株式会社エフエム東京は、2018年1月5日(金)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式を実施し、代表取締役社長・千代勝美が、以下の挨拶を述べました。



皆様、新年あけましておめでとうございます。

さて、今年、2018年(平成30年)は戊戌(つちのえ いぬ)の年だそうで、「果断をもって、維新、一新すべき年」「こだわりを切り捨て、進化する年」、まさに「飛躍するチャンス」の年だそうです。皆さんと共に、当社グループをさらに進化させていく、そのような年にしたいと思っています。

本年は、リーマン・ショックから10年になります。経済においては、世界的にバブルの様相を呈しているものの、国内の消費は依然冷え込んだままであり、イギリスのEU離脱問題、中国経済の減速など課題も多く、政治的には、昨年に続き懸念が高まっている北朝鮮問題や中東情勢を始め、全く先行きの不透明な状態が続くと予測されます。ビジネスの分野では、IoTが益々進展し、AIの急速な進化など、その変革は留まるところを知りません。IT革命の進展は、情報が無限に拡大する一方で、個々人の興味のある情報に最適化されることによる「情報の制限」が同時に進む、いわゆる「フィルターバブル」と呼ばれる状態にあります。

また、SNSの進化により人々のコミュニケーションが便利になった一方で、心の交流の希薄化が進み、様々な社会問題を生んでいるのも事実です。

そのような中、当社は、音声によるコミュニケーションがもつ、人と人との深い心のつながりを創り出す力を大切にしていきたいと考えます。そして、生活者に新しい発見と感動を提供し、共感を得る放送コンテンツを起点として、デジタルを活用して拡散していくことでメディア価値を更に向上させていきたいと思えます。

放送業界は大変革の時代を迎えています。TVは今年、4K、8K放送が開始されます。5G、6G時代に向けて、ネットでの同時再送信や、動画配信市場の進展に対しても対応が問われています。ラジオにおいては、AM局のFM補完の更なる進展や、ハイブリッドラジオなどの取り組みが進み、radikoのタイムフリー聴取や、オーディオ・アドへの取り組みも始まるなど、どこも、生き残りを賭けた施策を講じています。この激変する時代に、当社グループおよびJFN38局は、将来をどのように捉え、見通すか、いかに力強く生き抜いていくのかを様々な角度から検討し、戦略と施策を講じて行かなければなりません。

JFNのデジタルシフトの一つとして我々が推進する『i-dio』につきましては、今年、仙台親局、広島親局の開局によりカバーエリアを拡大すると共に、新たなビジネスモデルをスタートさせます。TOKYO SMARTCAST社では、訪日中国人旅行者に向け、「旅マエ・旅ナカ・旅アト」の3つのフェーズで、多彩な最新情報を、日本と中国の有力企業が連携して提供する「86東京(パーリュウ・トンジン)」を間もなく発表します。i-dioによる中国語の音声サービスとweb、リアルをつなぐことで中国人観光客を囲い込む、新しいコンシェルジュ型ポータルサイトを立ち上げます。この他にも、サイバーセキュリティへの利活用や、多言語でのデジタルサイネージの開発など、IoT時代に対応するビジネスの実現に取り組んでいます。

そして、もう一つの新たなチャレンジが、デジタル・オーディオ・アドへの取り組みです。今年3年越しで研究して来た、国内向けのデジタル・オーディオ・アドを組み込んだ「WIZ RADIO」をリリースします。そして我々の事業パートナー、米国アズウィズ社が保有する「アド・ウェイブ」の技術と連携し、デジタル・オーディオ・アドネットワークの構築という、新たな時代のデジタル・イノベーションにチャレンジしていきます。

時代の変革はいやおうなく進んでいきます。その中で、我々は果敢にチャレンジして、変革を起こす主役とならなければなりません。社会の全てがデジタル化して行く中で、ラジオだけが未来永劫アナログのままで生き続けられる保証など、ありません。当社グループと JFN38 局が一丸となって、デジタルシフトの成功モデルを実現させていかなければならないと思います。そして、忘れてならないのは、これら変革のベースになるものは、我々がつちかかってきた「感動を提供し、共感を得る」という変わらぬ理念に貫かれた「コンテンツの独自性の価値」を創造する力を磨くことと、玉石混交の膨大な情報の渦の中で、メディアとして発信する「情報の信頼性」という本質的価値をさらに育む、そうした信念や情熱が重要であるということです。

その価値の最大化のためには、JFN ネットワークの総合力や機動力というかけがえのない貴重な財産を最優先していく、不変の座標軸が必要です。JFN38 局と当社グループ会社と共に、心一つにして、新時代の大変革の主役になる気概で進もうではありませんか。

既成の枠組みにとらわれずに、自由な心で個人の個性や創造力を積極的に伸ばしていきながら、常に『全体最適』を最優先に、組織としての最大価値を産み出すことに取り組み、TOKYO FM の次世代に向けた企業文化を創り上げて行きたいと思います。